



## 日本のSD発展に多大な貢献をされた Carl Sims氏 CALLERLABマイルストーン賞(\*)を受賞

わが国におけるSDの歴史情報として加え、将来に語り継がれるべき内容ですのでジョン・ジョーンズ氏の受賞者紹介文をDIRECTION (Vo. 43 No.2) より抜粋・抄訳します。

日本のスクエアダンス界に多大な貢献をされ、今回CALLERLABマイルストーン賞を受賞されたCarl Sims氏について紹介いたします。テキサスの牧場で生まれ育ち、1950年代初頭にアメリカ空軍に入隊、1955年日本に配属されました。そこに勤務していた美しい日本人女性のタマエさんと結婚。サウスダコタ州に異動になり、そこで夫妻はスクエアダンスを習得。1960年、奥様と子供達と共に日本の横田空軍基地に配属、彼らは基地内のクラブでスクエアダンスを続け、コールを学び、コーラーがアメリカに帰国したのをきっかけに、カールはそのクラブのコーラーを引き継ぎました。レス・ゴッチャー氏のコーラーノートとSIO(セッツインオーダー)誌を購読。カール夫妻は三鷹のフォークダンスクラブメンバーの日本人の若者と共に78回転のレコードと教本でオールタイムスクエアダンス (OTSD)、例えば「かごの鳥」「インサイドアーチ」「バージニアリール」を楽しんでいました。

何度かそのクラブを訪ねる内に、カールはモダンウエスタンスクエアダンス (MWSD) を教えて欲しいと依頼されると講習を引き受け、お互いに初めて会う若者達2セットに教えました。これが、まさに日本に於けるモダンスクエアダンスの最初のクラスです。和田勝氏 (東京SDC) とガールフレンドの由美子さんもスタート時のメンバーで、2人は高校を卒業したばかりの恋人同士で後に結婚しました。

12週の講習の後、彼らは「ラッキーエイト・スクエアーズ」という名前のクラブを作りました。第1日曜をオープンダンスとして毎週日曜日に踊りました。カールは毎年2回のクラスで教えたが、この噂がこのクラスに来たフォークダンサー指導者の間に広まり、彼らはそこで学んだMWSDを自分のグループに戻って教え始めたのです。和田勝氏はこの期間中にコールを習い始めました。カールは10代だったタック尾崎 (フジスクエア)

ほかのメンバーにも教えました。又、日本にMWSDを紹介した人の内の一人なのです。このように、日本においてMWSDが非常に大きくなり、和田氏や尾崎氏ほか今も活躍しているコーラーがたくさんいることにはカールの貢献大なるものがあります。

カールは極東SDコーラーズ協会の強力なメンバーで、後には会長を勤めました。彼はアメリカ人と日本人ダンサーの関係改善に尽力しました。例えば、彼はレイバー・デイの週末に富士山から東京湾の島、大島へアメリカ人を動員し、そこでアメリカ人と日本人300人以上が一緒に踊る事が出来たのです。

これまでの日本のスクエアダンス界の成長については、1960年以降現在までにダンサーが16人から約15,000人に、クラブ数は1クラブから550クラブ、コーラーについては0人から約980人になっています。カールは日本スクエアダンス協会と東京コーラーズ協会の基盤作りを手助けしたのです。それは彼と彼の妻タマエさんはスクエアダンスの作法と共にアメリカの風習を教える事が出来たからです。日本でのスクエアダンスの成功の多くは、彼の妻の手柄だと言っています。日本生まれの彼女はアメリカ人とスクエアダンスのコミュニケーションに必要な社会的な面と技術の先生でした。彼はまた、大阪、豊橋など他の都市でも、スクエアダンスの精神も含めて教えたのです。彼は当時の貧しい子供達のための基金集めのためにスクエアダンスパーティーの開催もしました。

私達 (Jon & Deborah) が数年前に和田勝氏を通じて同じテキサス州に住むカールと知り合い、日本のダンサーやコーラー、またカールとタマエさんとの終ることのない交流について、話が尽きることはありませんでした。残念ながらタマエさんは2011年2月に亡くなっていました。

私達はカールの過去のSD歴を知ると彼の友人である日本人コーラー達も参加していることも告げてRaleighでのCALLERLABコンベンションに参加するよう要請したのです。CALLERLABの執行役員会でカールの経歴をまとめ、他の役員と一緒にレジェンドのセッションのパネリストに選んだのです。彼の日本のSDとの関わりについての歴史話は多くの参加者に感動を与えました。今年のNorfolk VAのコンベンションにもパネリストとして参加しています。その頃カールは既にコールはしていませんでしたが、私たちの住んでいる地域のコーラー協会では非情に尊敬されています。

彼は日本人コーラーに彼の音響設備を使わせ、その使用法を教えました。そしてスクエアダンスの組織の作り方と運営方法を伝授したのです。彼が日本駐留中、SIO誌の記事でBob OsgoodがBob Van Antwerpと日本旅行を計画していることを知りました。カールはBobと連絡を取り、東京及び近郊のスクエアダンスの最新情報を伝えてあったので、カールと日本人ダンサーは彼らを空港へ出迎え、東京のバス旅行にも同行できました。こ

のカールの紹介のためにこのような情報をいただいた和田勝氏とタック尾崎氏に感謝します。

カールはシンギング「Have I told You Lately」を日本RCA Victorでレコーディングしています。

SIOグループの日本訪問に際し、カールは初めての日米親善パーティーを計画、これは日本人ダンサーたちにとっては、“驚くべき光景だった”のです。

彼が極東コーラズ協会の会長であった時、日米親善コンベンションをスタートさせました。それが全日本SDコンベンションの始まりであり、今年で第55回目の開催になります。

アメリカのナショナルコンベンションが1974年にテキサス州サンアントニオで開催された時、カールとタマエさんも参加していました。2人は日本のダンサーとコーラーが飛行機をチャーターして参加する事を知り、彼らの飛行機を空港へ出迎えました。アメリカのダンサーと実行委員会の代表者も国賓に対してするようなレッドカーペットで出迎えをしました。カールとタマエさんは遠慮がちに後に控え、到着を歓迎する機会を待っていましたが、和田勝氏と由美子さんを含んだ日本旅行団の何人かがカールとタマエさんを見つけ大声で2人の名前を呼んだ時、日本人全員がアメリカ側の歓迎の人はそっちのけで、彼らの先生である2人のところへ駆け寄り抱き合ったときの興奮は、ご想像の通りです。カメラやマイクを持ったニュースメディアもそこにいる人物が誰なのか知ろうと駆け寄り取り囲んだのです。まさに「友達」としてカールは幅広い影響力を与えたのです。

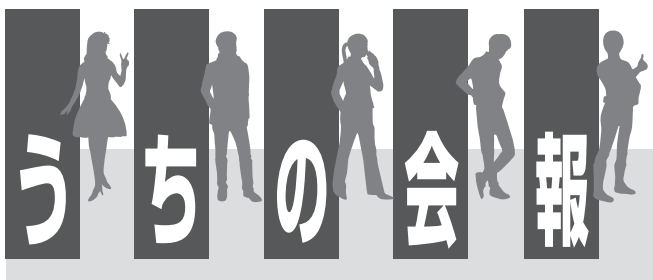
以上のジョン・ジョーンズ氏のプレゼンテーションの後、カールシムス氏はマイルストーン賞を受賞、家族とのサプライズ対面をしたのです。

尚、残念なことに、この記事の原稿執筆中にCarl Sims氏の訃報が舞い込みました。7月17日午後9時にご逝去されたとのことです(享年86才)。ご冥福をお祈りいたします。

(\*) CALLERLABマイルストーン賞はCALLERLABが個人に授ける最も名誉ある賞ですが、名の挙げた候補者は5つの別々のカテゴリーで厳しい基準を満たす必要があります。

1. スクエアダンス界への顕著で重要な貢献の有無。
2. その貢献が時の試練に耐えたものであるか。
3. 利己的な活動や営利目的でなく、他の人を思いやる姿勢があるか。
4. プロとしてのリーダーシップを常に磨き・維持してきたか。
5. スクエアダンス活動において幅広い影響を与えたか(地域の限られた非常に専門的な活動であっても認められることもある)。

## イラスト



### 東北統括支部情報誌「東北統括支部ニュース」

東北統括支部(水間清蔵統括支部長)が1年に2回発行する支部情報誌『東北統括支部ニュース』は7月に第139号が発行された。編集部を務める赤塚吉雄さん(SDC 스위트メモリーズ)は、『少ない紙面数ですが、会員の方々に見ていただいて、支部の活動の様子が分かること、支部に係わる情報を得ることができること、そして読みやすい紙面にすることなどを心掛けています。』とおっしゃる。

最後のページには「編集人の窓」という編集後記が書かれているが、来年のコンベンションにかける思いが綴られている。そう、来年の第56回全国コンベンションは仙台で開催されるのだ。本文の中で、来年のコンベンシ

ョンは8月18日(金)～20日(日)仙台国際ホテルが会場、と大きく誌面を割いている。

新・水間統括支部長の抱負、新しい年度の役員、監事の紹介、講習会の開催報告などが写真付きで紹介されている。会報は、会員の顔が見える編集が重要だが、記事を書いて下さった方のやわらかい顔写真が大きく掲載されているのが印象的だ。

新しく加盟したクラブの紹介記事は新クラブの意気込みが感じられる。(文責 井上忠志)

